

淡路南浦圏域（兵庫県） 総合水産基盤整備事業計画

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

①圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

本圏域は、淡路島南部の南あわじ市に位置し、5漁協が存在している。平成20年に2漁協が合併したが、それ以降は合併が検討されているところであるが、具体的な協議までには至っていない。

②主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

本圏域では小型底びき網、機船船びき網、釣り漁業など多種多様な漁船漁業と、ノリ、ワカメ、魚類養殖業が営まれており、令和元年の漁船漁業の生産量は2,235トン、養殖業の生産量は3,475トンである

【主要漁業種類の漁獲量】

(単位：t)

	H26 (ノリ養殖:H25 漁期)	R1
小型底びき網漁業	549	148
機船船びき網漁業	848	1,139
釣り漁業	214	197
小型定置網漁業	439	489
その他漁業	922	241
漁船漁業計	2,533	2,235
養殖業※	3,400	3,475

出典 H26は、漁船漁業：兵庫県水産業の動き ノリ養殖：共販資料 ※37.5kg/千枚で換算
R1は、漁港の港勢調査属地陸揚量と港湾の該当漁協報告書水揚量の合計

【主要魚種の漁獲量】

(単位：t)

	H26	R1
シラス	707	1,214
イカナゴ	64	0
スズキ類	35	6
タコ類	128	47
タイ類	264	139
サワラ類	57	85
養殖ノリ	723	610
養殖ワカメ	2,446	2,692
養殖魚類	231	173

出典 H26は、漁船漁業：兵庫県水産業の動き ノリ養殖：共販資料 ※37.5kg/千枚で換算
R1は、漁港の港勢調査属地陸揚量と港湾の該当漁協報告書水揚量の合計

本県漁船漁業の漁獲量 (R1年) は40,912トン(農林水産統計)、養殖生産量 (R1年)

は 64,585 トン(農林水産統計)であり、本圏域のシェアは漁船漁業:5.5%、養殖業:5.4%である。また R1 年統計値において本県は、シラスが全国 1 位、クロダイ、スズキ類、タコ類、ノリが全国 2 位の生産量を誇っているが、本圏域の県内シェアはシラス:8.4%、タイ類:8.5%、スズキ類:1.3%、タコ類:3.7%、ノリ:1.1%となっている。なおワカメの県内シェアは 81.8%を占める。

<近年の資源動向>

・機船船びき網漁業漁獲対象種 (シラス・イカナゴ)

シラスは瀬戸内海における再生産と、春期に太平洋から来遊するシラスによって形成され、年変動が大きい。近年の資源動向は横ばいである。また、イカナゴは紀伊水道の再生産によって形成され、シラスと同様に年変動が大きい。近年、栄養塩濃度の低下等により資源動向は減少傾向が著しく、生産量はごく少なくなった。

・機船船びき網漁業以外の漁獲対象種 (タイ類、サワラ類、スズキ類、タコ類等)

マダイについては種苗放流等の効果もあいまって高位を保っている。その他の魚種について、サワラの資源量は増加傾向であるものの、主な漁業種類である小型底びき網、釣り漁業、定置網漁業の近年の漁獲量が減少傾向で推移していることから、これらの漁業によって漁獲される魚種の資源動向についても多くが減少傾向であると類推される。

(参考)

小型底びき網漁業の主要漁獲対象種:マダイ、ヒラメ、カレイ類、甲殻類、タコ類

刺網漁業の主要漁獲対象種:スズキ類、カレイ類、マダイ、タコ類、イカ類

釣り漁業の主要漁獲対象種:マダイ、アジ類、タチウオ

<資源管理措置>

・機船船びき網漁業

イカナゴ漁期は毎週日曜を、シラス漁期は毎週水、日曜を休漁日とする資源回復計画を策定している。また、網下ろし・網揚げ日を統一し、漁獲動向に応じて休出漁を決定している。なお、イカナゴについては翌年度の資源量を確保するため、研究機関の調査結果に基づいた網揚げ日の決定を行っている。

・機船船びき網漁業以外

圏域内の各漁協の各漁業種類において休漁日の設定を主な資源管理措置とする資源管理計画を漁協単位で策定している。

【淡路南浦圏域内で策定されている資源管理計画】

漁協名	漁業種類	主な資源管理措置
湊	小型機船底びき網、小型定置網、刺網、たこつぼ	休漁日の設定、 小型魚の再放流（小底）
南あわじ	五智網、小型底びき網、刺網、一本釣り、たこつぼ、雑漁かご	休漁日の設定、小型魚の放流
福良	小型底びき網、一本釣り	休漁日の設定、 小型魚の再放流（小底）
南淡	小型機船底びき網、小型定置網、刺網、一本釣り、たこつぼ、雑漁かご	休漁日の設定、 小型魚の再放流（小底）
沼島	小型機船底びき網、小型定置網、刺網、一本釣り	休漁日の設定、 小型魚の再放流（小底）

<つくり育てる漁業の取組み>

マダイ、ヒラメ、マコガレイ、オニオコゼ、キジハタ、クマエビ、ガザミ、クロアワビ、サザエ、アカウニ、マナマコの間育成及び放流が実施されている。

（※キジハタ、ガザミ、クロアワビ、サザエ、マナマコは直放）

③水産物の流通・加工の状況

・機船船びき網漁業漁獲対象種（シラス・イカナゴ）

シラスは主に本圏域内の加工場に出荷され、釜揚げやシラス干しに加工後、卸売市場を経由して広く京阪神地域に流通している。イカナゴ新仔もシラスと同様に圏域内の加工場に出荷され、釘煮や釜揚げに加工後、京阪神地域に流通する。

・機船船びき網漁業以外の漁獲対象種

機船船びき網漁業以外の漁獲対象種は、概ね以下の流通形態となっている。

- i) 丸山、阿那賀、灘、沼島漁港、湊、福良港に所在する産地市場→圏域内及び近郊の小売店等
- ii) 上記の産地市場→卸売市場→京阪神の小売店等

なお、タコ類については、一部兵庫県漁連が浜値維持のため買受人となり、妻鹿漁港に所在する加工流通センターで加工後、広く京阪神地域に流通するものがあるほか、沼島周辺では一本釣りで漁獲されるマアジは「ぬしまアジ」としてブランド化され東京を中心とした中央市場に出荷されている。

④ 養殖業の状況

・ノリ養殖業

陸揚されたノリは、漁業者自らが乾ノリ（板ノリ）に加工し、ほぼ全てが兵庫県漁連の共販にかけられ、商社を経て主にコンビニエンスストアのおにぎり用などの業務用として全国に流通している。

圏域内漁港・港湾における令和元年ノリ養殖業陸揚量(ト)	
湊港	53 ト
阿万港	359 ト
灘	198 ト
合計	610 ト

・ワカメ養殖業

淡路島沿岸は良質な天然ワカメが収穫できる地域であり、昔から収穫されてきた。淡路島南部の鳴門海峡の急流で育ったものが特に良質であることから、ワカメの養殖がされており、品質が良い物は「鳴門ワカメ」としてブランド化しており価値が高く、漁業の収益に寄与している。

圏域内漁港・港湾における令和元年ワカメ養殖業陸揚量(ト)	
湊港	6 ト
丸山	2,573 ト
阿那賀	84 ト
福良港	29 ト
合計	2,692 ト

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

	経営体数		漁業就業者数		
	H25	H30		H25	H30
個人	333 体	266 体	男	530 人	432 人
団体	24 体	19 体	うち 65 歳以上准	237 人	173 人
計	357 体	285 体	計	558 人	450 人

出典：漁業センサス

本圏域内の漁業経営体数、漁業就業者数は、ともに減少傾向が継続している。魚価の低迷や燃油の高騰など水産業を取り巻く情勢は厳しいが、播磨地域では横ばい～回復の兆しもあり、当圏域でも漁業の担い手確保が回復に転ずることが期待される。

⑥ 水産業の発展のための取り組み

本圏域を含む淡路島では、漁業者、加工業者、レストラン、ホテル、行政が連携し、「淡路島生しらす」として、また3年間養殖したトラフグを「3年トラフグ」としてブランド化に取り組んでおり、淡路島観光の目玉として人気を博している。さら

に、新たなブランドとして「淡路島えびす鯛」や「淡路島サクラマス（新規養殖魚種）」のPRも開始した。

また、アオリイカ資源増大対策（産卵用柴漬）の取組を県内で初めて実施した地域でもある。

⑦水産基盤整備に関する課題

本圏域の各漁港では一定水準の整備が完了しており、今後は既存施設の適正な維持管理と有効利用が重要となる。また、地震・津波発生時の被害軽減と漁業活動の早期再開を図るため、既存の防波堤や岸壁等の機能強化が必要である。

漁場においては、鳴門海峡の複雑な潮流とその潮流により形成される起伏に富んだ海底地形から、水産生物の産卵や育成、生息場所として適した海域であるが、栄養塩不足等による海域環境の悪化により、海域の生産力の低下が問題となっている。さらに、和歌山県・徳島県と接するため本県漁業者の操業可能域は狭いことから、水産資源に与える漁獲圧力がますます高まっている。

⑧将来的な漁業機能の集約化

本圏域内の漁港において漁船数が減少していることから、充足率が増加している。今後漁船数が伸びないことから、充足率は横ばいまたは上昇傾向にあると予測され、係留施設を新たに整備する必要性は低い状況にある。

漁港内の余剰水域、用地の需要を見据え、漁港機能の集約化も含め活用方法を検討していく。

淡路南浦圏域における係留施設利用（港勢を基に算出）			
	H22	R1	R22-R1
利用漁船数	577 隻	387 隻	190 隻減
充足率※	84%	91%	7%増

※充足率（%）＝（所要延長－不足延長）／所要延長×100

不足延長＝所要延長－現有延長

所要延長：利用漁船が陸揚・準備・休けい目的に必要なとする係留施設の延長

現有延長：漁港が現在保有している係留施設の延長

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由；沿岸部の天然資源を活用し、水産物の生産、供給の強化を図っている。
② 圏域範囲	兵庫県淡路島の播磨灘南東部から鳴門海峡を越えて紀伊水道北部に至る南あわじ市沿岸一帯	設定理由；漁業操業及び漁業調整等において圏域一帯を活動範囲とする漁業組織がある。
③ 流通拠点漁港	該当なし	—
④ 生産拠点漁港	丸山漁港 沼島漁港 灘漁港	設定理由；陸揚金額、陸揚量が生産拠点の要件を満たしている。 丸山漁港は、養殖ワカメの生産、供給の拠点として中核的な役割を担っている。また、沼島漁港は小型底びき網漁業、一本釣り漁業を中心とした漁船漁業等の生産、供給の拠点として中核的な役割を担っている。 両港においては、災害発生後も漁業活動が早期再開できるように主要岸壁の耐震化を推進する。 なお、沼島漁港では主要な防波堤改良、港口水門を新設する等して、津波浸水範囲や到達時間の低減を図る。
⑤ 流通・輸出拠点漁港	該当なし	—

(令和元年)

圏域の属地陸揚量	5,710 ト
圏域の総漁港数	9 漁港 4 港湾
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	3 港湾

圏域の登録漁船隻数	510 隻
圏域内での輸出取扱量	—

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	淡路南浦ノリ養殖地区	兵庫県ワカメ養殖地区
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ノリ	ワカメ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種（収穫量）(トン)	610 ト	3,171 ト
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業算出額(百万円)	2,410 百万円	1,310 百万円

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

漁業従事者の減少傾向、陸揚量・金額が低迷する中で、水産物の安定的な生産体制の確保が課題となる。そのため、安定した漁業活動が可能となるような漁港整備を推進し、生産コストの縮減を図る。

生産拠点漁港である沼島漁港では漁港区域内で加工場を整備し、付加価値向上に資する取組を行っており、今後も漁港用地・加工場を有効活用し付加価値向上に取り組んでいく。

② 養殖生産拠点の形成

<淡路南浦ノリ養殖地区>

本圏域では、古くからノリ養殖業が盛んで生産地として拠点を形成している。

圏域内で生産されるノリの多くが業務用として流通しており、価格が抑えられる傾向にある。また、近年ノリ養殖海域の栄養塩の低下により色落ちが発生し、生産したノリの品質が低下することにより生産金額が減少するなど不安定な状況となっている。

この状況を解消するため、栄養塩の巡りが良好になるよう、空いた漁場を活用し養殖枠の間隔を広げて色落ち被害を抑制し、品質の向上に努め、価格を高め生産金額の向上に努める。

<兵庫県ワカメ養殖地区>

本養殖地区では、ワカメの養殖生産が盛んで鳴門海峡周辺で生産されるものは「鳴門ワカメ」として、付加価値が付いている。しかし、近年は栄養塩の低下による品質の低下や他県産の種苗確保の課題等によって、生産状況が不安定な状況となっていることから、本県の漁場環境に適した種苗の生産に向け、品種改良や種苗の量産化の取組を行っている。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

本圏域は、水産生物の産卵や育成、生息場所として適した海域であるが、栄養塩不足等による海域環境の悪化により、海域の生産力の低下が問題となっている。さらに、和歌山県・徳島県と接するため本県漁業者の操業可能域は狭いことから、水産資源に与える漁獲圧力がますます高まっている。

そのため、天然の岩礁域や藻場、過去に造成した漁場と一体となって効果の発現が見込まれる位置に増殖場を造成し、岩礁性の魚種に好適な生息環境を面的に創出する

とともに、アジ・サバ等回遊性魚類の漁場形成が見込まれる位置に沈設魚礁を分散して配置することで環境変化に対応した漁場整備を実施し、海域の生産力向上を図る。

さらに、かいぼり等の栄養塩管理と連携し、水産多面的機能発揮対策による海底耕うん等の浅場の保全活動等を実施し、海域の生産力向上を図る。

なお、漁場環境観測システム等を活用して水温、塩分、栄養塩類等をモニタリングし、海域の環境変化等を的確に把握するとともに、関係者への情報発信を図る。

②災害リスクへの対応力強化

東南海・南海同時地震や南海トラフ巨大地震による地震動ならびに津波来襲に備え、漁業地域の安全対策を図り、被災しても地域水産業が早期回復できるよう地震・津波対策に取り組む。

現時点では、沼島と淡路島を結ぶ離島航路を有する灘漁港において旅客船が着岸する浮棧橋と接続する護岸の耐震化が完了したところであり、沼島漁港においても地震・津波対策を実施中である。

本圏域の生産拠点漁港である丸山漁港と沼島漁港は、兵庫県淡路島の南端に位置することから「最大クラスの地震」により生じる津波は県内で最も早く到達するとともに津波高も大きく、浸水等の被害が甚大であると想定されている。

そのため、背後集落の漁業従事者のみならず、多くの地域住民を守るための防災機能を充実させることが必要である。よって、主要な防波堤、岸壁の耐震化・耐津波化を推進する。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

本圏域では四季を通じて多種多様な水産物が水揚げされており、漁獲量の変動が大きく多種多様な漁業種別を営む事で漁業経営を行っている。近年の海洋環境の変化等により、漁獲量の減少や魚価の低迷が生じ、漁業経営が非常に困難な状況になっている。

浜プランにおいて、漁獲物の品質向上、資源管理計画の履行、ノリ生産量及び生産水揚高の増額、地元消費の拡大に取り組むことにより「海業」による地域の活性化を図る。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁獲量の減少や魚価の低迷とともに厳しい経営状況によって後継者が育たず高齢化が進み、平成29年度の統計では50代以上が半数以上を占めている状況にあるため、後継者の育成や担い手の確保が急務となっている。

そのため、漁業後継者の育成と新規就業者のスキルアップを図るため、良好な研修環境整備に努める事としている。

また、漁業の担い手の生活基盤として、漁村整備事業により漁業集落排水施設整備を行うことで、居住環境を整え漁業者の定住化を図る。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
沼島	流通基盤強化	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	沼島漁港	2種	
丸山	流通基盤強化	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	丸山漁港	2種	
灘	流通基盤強化	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	灘漁港	2種	

機能増進事業を活用し、小規模な対策による流通基盤強化を行う。

② 養殖生産拠点の形成

補助事業等の活用を検討し対策を行う。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
紀伊水道	環境変化	水産環境整備事業
南あわじ市第2	環境変化	漁村再生交付金
南あわじ市第3	環境変化	漁村再生交付金
南あわじ市	環境改善	水産多面的機能発揮対策

環境変化に対応した漁場整備を実施し、海域の生産力向上を図るため、投石及び餌料培養礁による増殖場を造成し、岩礁性の魚種に好適な生息環境を面的に創出するとともに、アジ・サバ等回遊性魚類の漁場形成が見込まれる位置に回遊魚の蛸集を促進する高さの沈設魚礁を分散配置する。

また、栄養塩管理と連携し、水産多面的機能発揮対策による浅場の海底耕うん等の保全活動により、海域の生産力向上を図る。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
沼島	安全・安心	水産生産基盤整備事業	沼島漁港	2種	
沼島	早期再開	漁港施設機能強化事業	沼島漁港	2種	
県営本土	予防保全	水産物供給基盤保全事業	沼島漁港	2種	
県営本土	予防保全	水産物供給基盤保全事業	丸山漁港	2種	
灘	予防保全	水産物供給基盤保全事業	灘漁港	2種	
沼島	予防保全	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	沼島漁港	2種	
県営本土	予防保全	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	丸山漁港	2種	
灘	予防保全	(水産業競争力強化) 漁港機能増進事業	灘漁港	2種	

沼島において、水産生産基盤事業、漁港施設機能強化事業により、漁港施設の耐震強化、耐津波化を図ることで安全に避難することを可能とし、さらに早期の漁業再開することを可能にする。

また、他の漁港では機能保全計画に基づき、水産物供給基盤保全事業、漁港機能増進事業を活用し、計画的に老朽化対策を行う事で災害リスクへの対応を図る。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

農林漁業者と食品産業、商工業、医療、福祉、観光など様々な分野の事業者、大学などの研究者が交流・連携し県産農林水産物を活用した新たな商品、サービスの開発や独創的な活動を支援する「農イノベーションひょうご」に参画し、異業種との交流に取り組み、水産物を通じて漁村の活性化を図る。

その他、補助事業等による漁業者への支援を行い、「海業」による地域の活性化を図る。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
阿那賀	生活環境	漁村整備事業	阿那賀漁港	1種	
丸山	生活環境	漁村整備事業	丸山漁港	2種	
沼島	生活環境	漁村整備事業	沼島漁港	2種	

漁業の担い手の生活基盤として、漁村整備事業により漁業集落排水施設整備を行うことで、居住環境を整え、漁業者の定住化を図り担い手を確保する。

また、幅広い視野を持った将来の水産業界をリードしていく人材育成を行うことを目的とする「大輪田塾」の活用や研修等の開催により、水産業の中核的担い手を養成する。

4. 環境への配慮事項

本圏域の大半が、瀬戸内海国立公園の鳴門海峡地区および沼島地区に位置しており、自然環境に恵まれている。漁港整備にあたっては、景観等の環境に配慮して実施する。

5. 水産物流通圏域図

別添のとおり

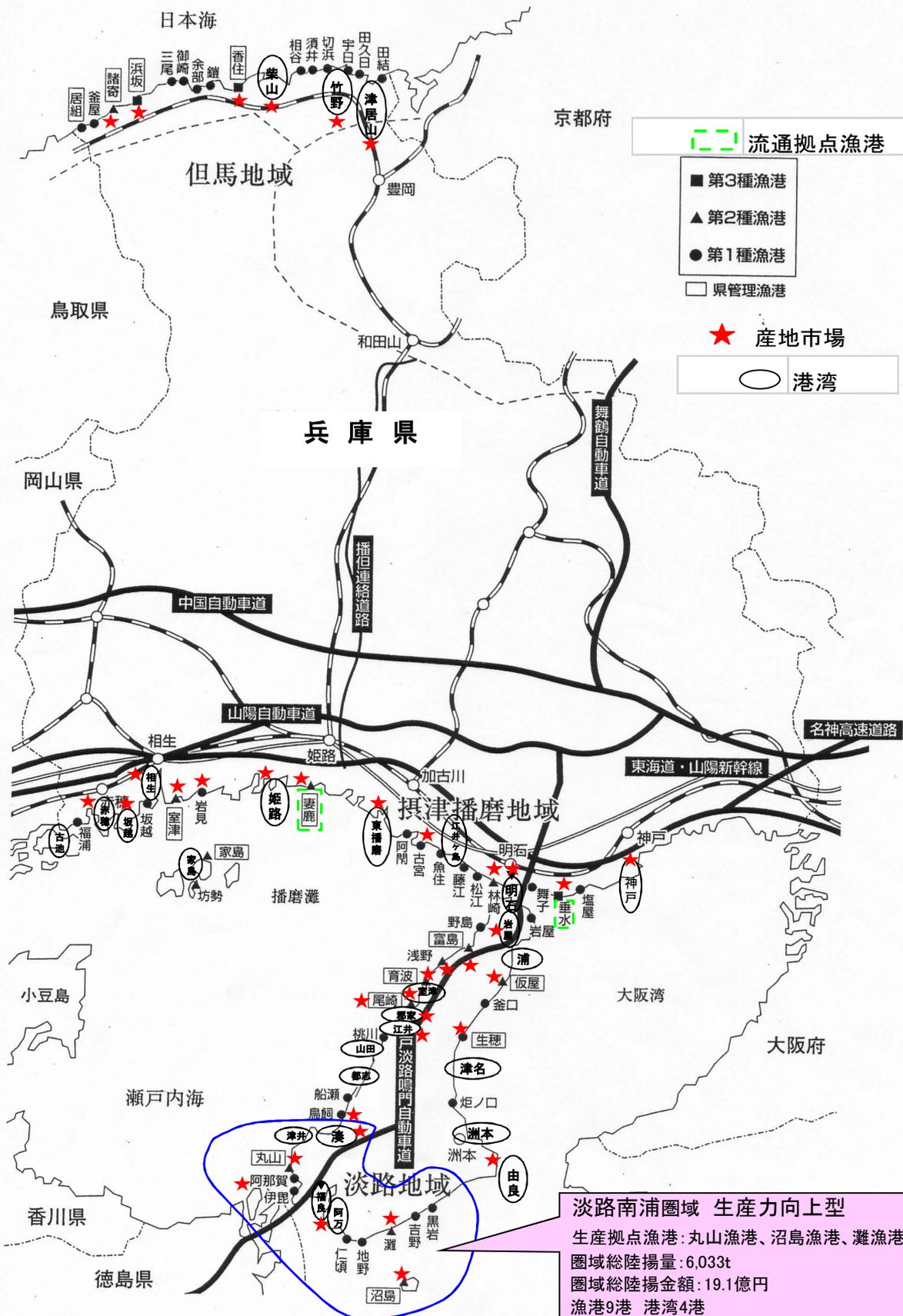
6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

別添のとおり

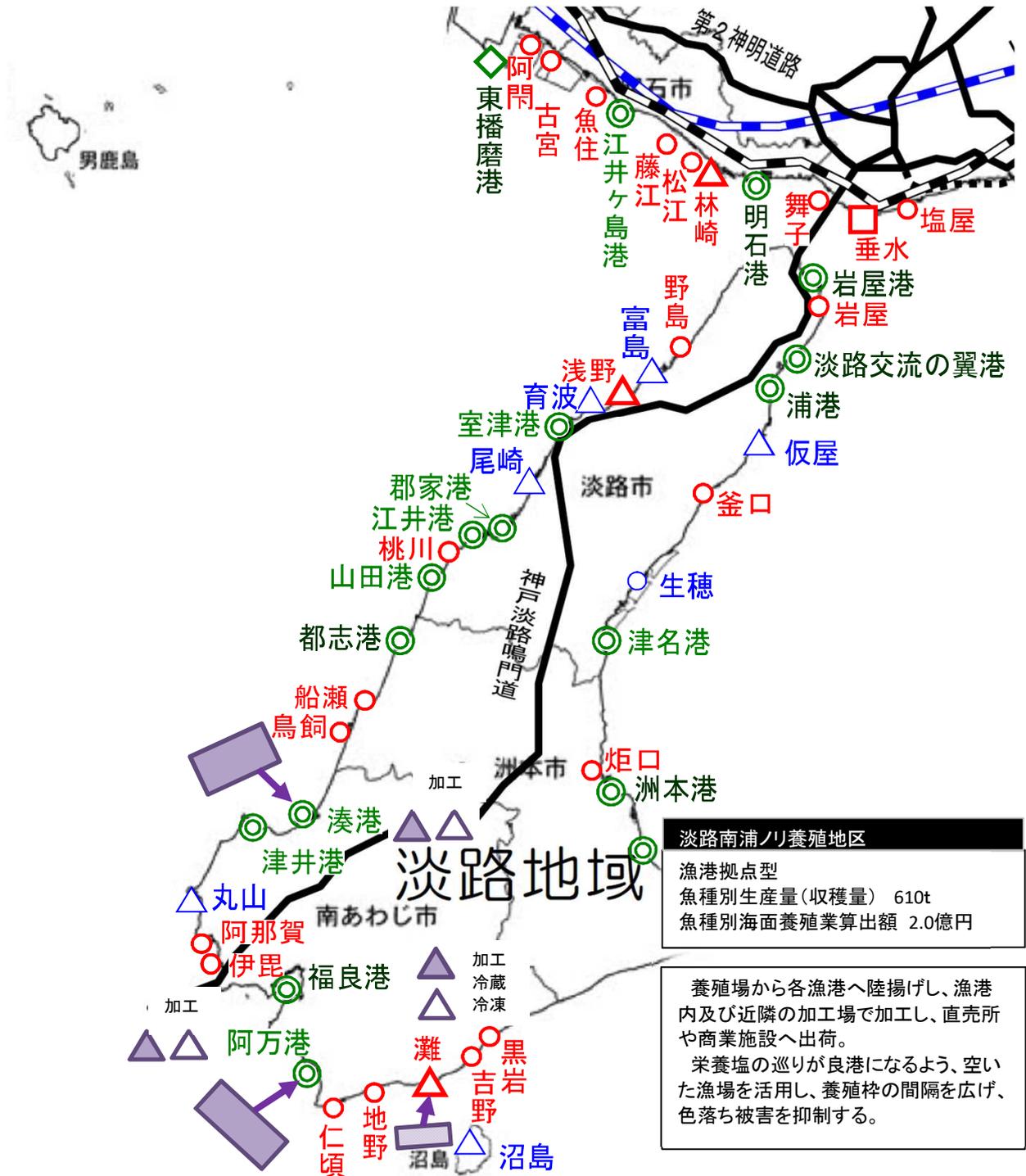
7. 漁港ごとの役割や機能分担及び漁港間での連携の状況を示す資料

別添のとおり

兵庫県水産物流通圏域図



淡路南浦(ノリ)養殖生産拠点地域図

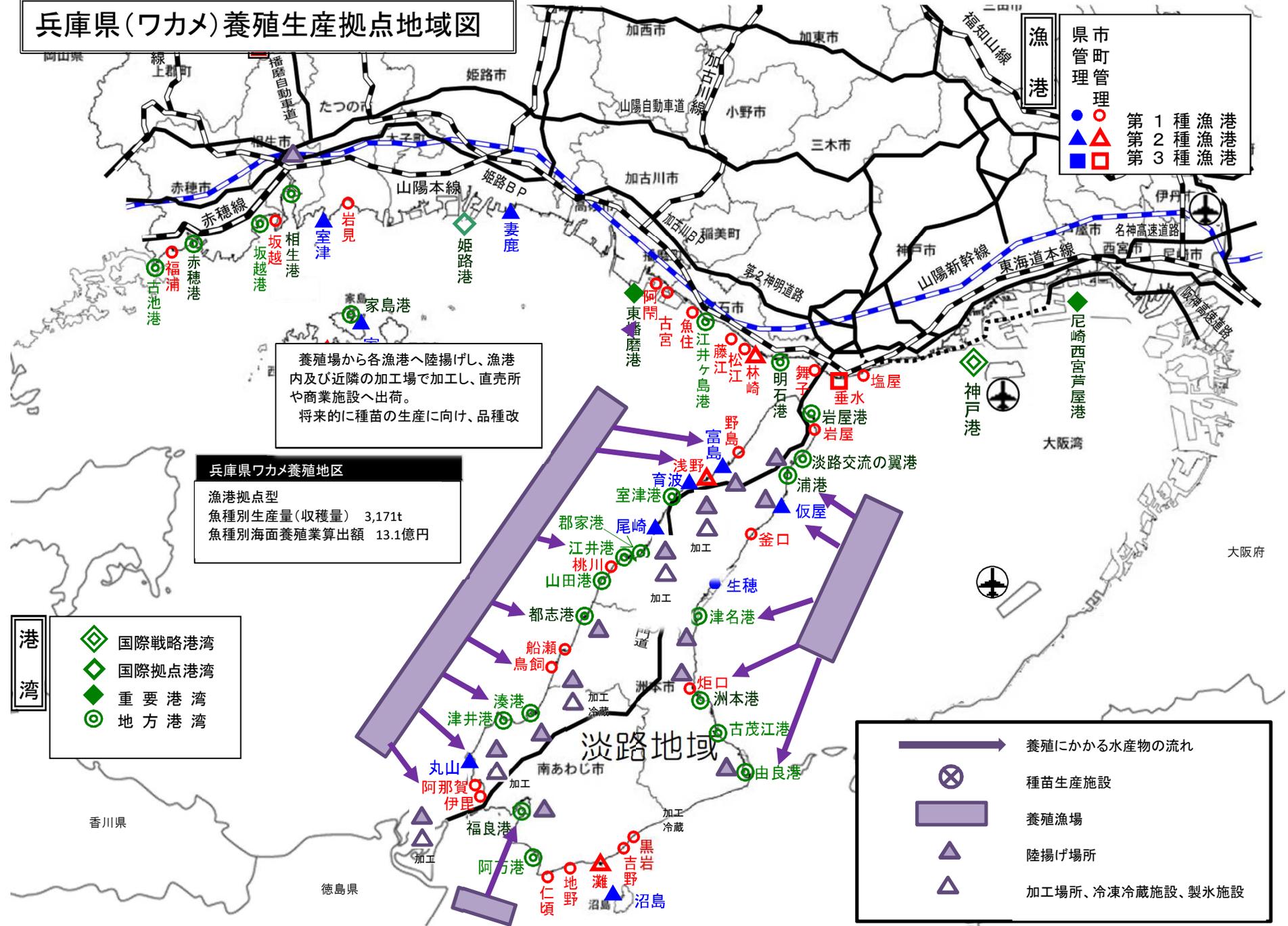


漁港	
● ○	第1種漁港
▲ ▲	第2種漁港
■ □	第3種漁港
● ○ ▲ ▲ ■ □	市町管理
● ○ ▲ ▲ ■ □	県管理

港湾	
◇	国際戦略港湾
◇	国際拠点港湾
◆	重要港湾
◎	地方港湾

→	養殖にかかる水産物の流れ
⊗	種苗生産施設
▭	養殖漁場
▲	陸揚げ場所
▲	加工場所、冷凍冷蔵施設、製氷施設

兵庫県(ワカメ)養殖生産拠点地域図



漁港	
●	第1種漁港
○	第2種漁港
▲	第3種漁港
■	第3種漁港

養殖場から各漁港へ陸揚げし、漁港内及び近隣の加工場で加工し、直売所や商業施設へ出荷。
将来的に種苗の生産に向け、品種改良

兵庫県ワカメ養殖地区

漁港拠点型
魚種別生産量(収穫量) 3,171t
魚種別海面養殖業算出額 13.1億円

港湾	
◇	国際戦略港湾
◇	国際拠点港湾
◆	重要港湾
◎	地方港湾

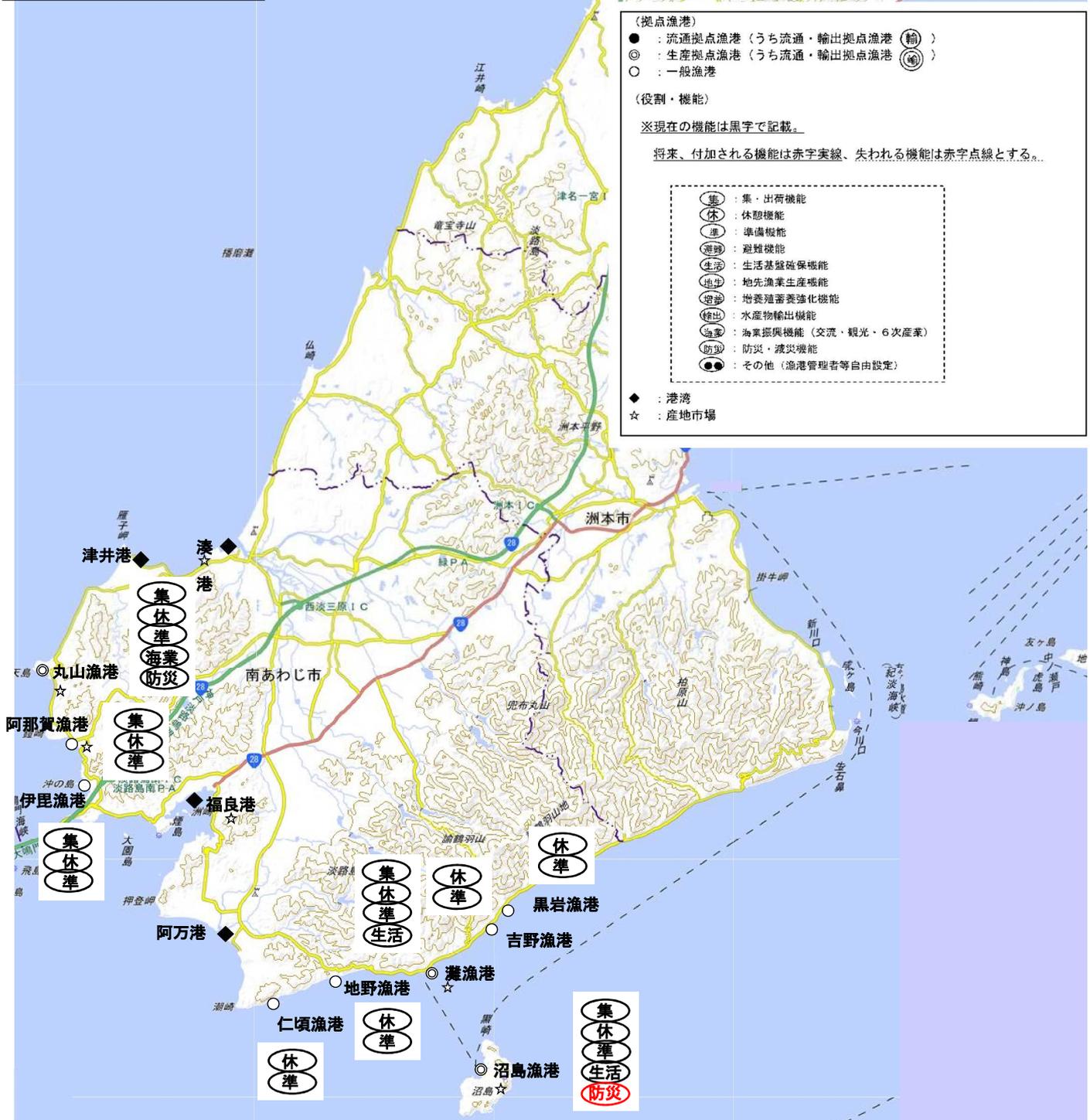
→	養殖にかかる水産物の流れ
⊗	種苗生産施設
▭	養殖漁場
▲	陸揚げ場所
△	加工場所、冷凍冷蔵施設、製氷施設

兵庫県 淡路南浦圏域図 (機能の連携)

圏域総陸揚量 : 6,033 t

圏域総陸揚金額 : 19.1 億円

漁港 : 9 港 港湾 : 4 港



(拠点漁港)

- : 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸))
- ◎ : 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸))
- : 一般漁港

(役割・機能)

※現在の機能は黒字で記載。
 将来、付加される機能は赤字実線、失われる機能は赤字点線とする。

集	: 集・出荷機能
休	: 休憩機能
準	: 準備機能
避	: 避難機能
生	: 生活基礎確保機能
地	: 地先漁業生産機能
増	: 増養殖養殖強化機能
輸	: 水産物輸出機能
海	: 海軍振興機能 (交流・観光・6次産業)
防	: 防災・減災機能
●●	: その他 (漁港管理者等自由設定)

◆ : 港湾
 ☆ : 産地市場